**上久保の一里塚**

**土でできた里程標**

日本の古い街道の距離は、石造の里程標ではなく、このように大きな土塁という形で表示されていました。一里塚は、一里という、4km弱に相当する日本の昔の測定単位ごとに設置されていました。高さ3mで、その底部の面積が9m2の一里塚の頂上にはマツまたはエノキのいずれかが1本だけ植えられており、この木は、疲れた旅人に日陰をもたらすと同時に、塚が崩壊してなくなることを防ぐ役目も果たしていました。

 上久保の一里塚は、江戸から78番目の一里塚で、江戸から約306kmのところにあります。南木曽にはこのような一里塚が十二兼、金知屋、ここ上久保と下り谷に計4基ありましたが、元の形をとどめているのはこの一里塚だけです。